

日本腹部放射線研究会の 歴史と展望

第26回日本腹部放射線研究会


平成24年6月22・23日 於 大阪

名誉会員 打田 日出夫



30年以上前、放射線診断学領域においても **subspecialityの重要性**が高まり、多くの臓器（消化器・泌尿生殖器など）を含む **腹部領域専門の必要性**を痛感した。

放射線科医として、各種の **modality**（単純X線、バリウム検査、胆道造影、尿路造影[DIP-tomo],リンパ造影、血管造影）の経験から **臓器分離に疑問**を持ち **各臓器をチーム**（大阪大⇒奈良医大）で守備



第1回腹部放射線研究会

1990年10月(22年前); 討議の後第26回日本医学放射線学会秋季臨床大会にジョイントして秋田に於いて、肝・胆・膵系を中心に開催。1991年4月放射線学会評議員会に於いて「泌尿生殖器系研究会」設立の提案あり、「肝・胆・膵系研究会」と合体して「腹部放射線研究会」として発足することに合意。4年間交互に年2回開催後合併し年1回開催。



CTとMRIを中心とした**画像診断**が
腹部全領域を包含した**疾病・病態の情報**
を同時に提供する日常診療の**現況を予知**

質の高い**画像診断**情報をpitfallを回避して
提供する**責務がある放射線科医の立場**から

腹部全領域を包含した本研究会の設立
(一つの会場)は正しい判断であった



腹部放射線研究会の特徴

対象は病態や病理診断が明らかにされた
興味深い教訓的な症例を発表することを基盤

各臓器と疾患に於けるパイオニアの病理医
が全国からコメテータとして参加して適切な
解説とコメントを述べて頂く

一会場性



代表幹事(理事)

打田 1990～2000年:11年

板井悠二先生(筑波大) 2001年～:2年

松井 修先生(金沢大)2003～2012年:10年

森 宣先生(大分大) 2013年～

副代表幹事(理事)

森 宣先生(2013年迄)、後閑武彦先生(昭和大)

事務局

1990～2006年:16年 奈良医大 放射線科

2007年～:大分大 放射線科:改革(法人化)

(後援:バイエル薬品株式会社にご尽力)

腹部放射線診断アトラス

腹部放射線診断アトラス」[I]が1993年4月に発刊され2009年に[XIV] が刊行
序文、発刊の巻頭言：素晴らしいので、
まとめて配布を提案したい。
最近、「デジタルアトラス」閲覧と
「臨床放射線」掲載に移行された。



関連企画の提案と発足

- 画像診断が手術・放治・IVR等の治療方針の決定と背後にある病態の理解において顕著に有用な症例の提示：評価は未知
- GUR
- JSAR CT コロノグラフィー・ワークショップ
CT Urography研究会
(CT・MR Urography研究会は如何?)
将来：Molecular Imaging など
肝血流動態イメージ研究会など多数存在

若い経験が少ない時期から
遠隔画像診断のみに専念しない！

外来・病棟・手術室・**病理**・他科との**連携**
各専門科とのカンファレンスと**情報交換**
検査手順相談：**診断精度・効率化の促進**

「**日本腹部放射線研究会**」を活用



お礼

歴代の幹事(理事)、監事、
世話人(評議員)の先生、特に
病理医の先生 並びに会員、
ご協力頂いた方々に心から感謝
致します。



**日本腹部放射線研究会
と若き放射線科医の
益々の発展を祈願**



ご静聴ありがとうございました
目標は同じ 仲良く

皆様のご健勝をお祈りいたします

